

(別紙4-1)(ユニット2)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502710		
法人名	有限会社 コミュニティさっぽろ		
事業所名	グループホーム みんなの家		
所在地	札幌市白石区菊水9条3丁目4-13		
自己評価作成日	令和4年11月7日	評価結果市町村受理日	令和5年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170502710-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和4年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ間での意見交換、話し合いを常に行い、適切なケアが継続出来る様に努めています。スタッフの人員不足の状況が続いていますが、緊急時等は全スタッフがー丸となって協力し勤務交代をしながら努力しています。入居者様が毎日不安の無い生活を過ごして頂けるよう安心した声掛け、ケアを行っています。入居者様の症状が重度化、終末期になった場合にも、ご本人様、ご家族様が望んだ生活が出来るよう、医療連携体制も含め、最大限考慮出来るよう対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目の届く所に掲示し日々のケアにあたります。新職員が来た際には理念の説明をし理解して頂いてから仕事をしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日には周辺の散歩を行い地域の方や子供達との交流も深めたいと思っていますが新型コロナの影響もあり、他者との交流を控えています。夏祭りも規模を小さく内部でのお祭りのみの開催になりました。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年、事業者主催の夏祭りで地域の方々に向けて介護相談の窓口になっていたが、コロナ予防対策の為規模を小さくしたため、電話窓口や直接事業者に来て相談をして頂くようにしています。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括、町内会長、民生委員、入居者様、ご家族様による会議を2ヶ月に1回行うようにし、状況報告、身体拘束について意見交換、学習会を行っています。今年は各階でスタッフがコロナになった経過もあり中止して開催がない時もありました。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区の担当の方や保護課の方と情報交換、相談、報告を細めに行うようにしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束、虐待防止を徹底する為、研修に1度は参加しています。今年は色々な資料を元に勉強会、話し合いをし、お互いに注意しあえる関係を築いていまうs。夜間は防犯の為、施錠し、日中は自由に出入り出来る様になっています。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止法等の研修会があれば参加するようにし、報告、話し合いを行います。転倒の危険性がある方も多く、ご家族様と相談、話し合いを行い、見守りの強化、他の対策を検討、相談を行います。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前弁護士を招いて成年後見制度について勉強会をしました。研修がある場合には参加するようにしています。また、活用している入居者様もいたため、その都度、どういふものかを話し合っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書についてご家族、ご本人の前で読み上げて説明をし、十分に理解と同意を頂いた上で署名を頂きます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所では1階の玄関入口、各階の玄関前に意見箱を設置しています。電話、面会時でも常に対応しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回代表者、管理者、職員参加の会議を開きそれぞれの意見、相談、提案を出し、話し合いを行い、日々のケアに活かせるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各ユニット会議に参加します。管理者、職員の現状を把握し相談、希望、要望に沿っていけるよう環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については新型コロナの影響もあり、オンライン研修などに参加し他職員に報告、話し合いを行っています。内部研修については各ユニットごとにいろいろなテーマで話し合い意見交換を行うようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者会議を含め色々な会議に参加するようにし、情報交換を行いながら質の向上を目指しています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはご本人様との面談、ホームの見学、説明を必ず行い、アセスメントをし、安心して入居出来る様にしています。不安なく少しずつ慣れて頂けるよう配慮して行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様と面談を行い、希望や不安なことを確認しています。その後も要望や疑問が出て来た際にはその都度話し合いをして安心して頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前、面談時に不安事や希望を確認し必要なケアを検討したり、他のサービスを含め、主治医やご家族様と話し合い、対応するように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様にとって家庭的な場所、共に暮らしているという雰囲気作りを心掛け、日常会話や関わりを大切に一緒に洗濯物をたたんだり、掃除をしたり出来る事を一緒に行うよう心掛けています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時は必ず近況報告を行い、特変時にも電話相談を行い、ご本人様にとって最良のケアを共に検討し、ケアにあたるようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、親戚の方の7面会受け入れを出来る限り行い会話を楽しまれています。コロナ予防で面会が難しい際には電話での会話をいつでも行ったり、お手紙での報告も出来るようにしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様1人1人の性格や相性を把握し、一緒に会話が出来る環境を整え、状況に応じて席の配置、テーブル席の位置などを検討し、対応しています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じて支援したり、相談や問い合わせにも、その都度対応しています。退去後もご家族様が立ち寄ってくれる事もあり、その都度話し、相談にのっています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の表情、行動を観察し、可能な限りご本人の希望にそった支援が出来るよう心掛けています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、前の入居先からの情報、本人からの話や日々の様子などからアセスメントを行い、その人らしい暮らしを支えていくためのケアに活かそうと心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活が把握できる記録を用いて、食事、排泄、入浴、本人が話した事等細目に記録し、把握できるように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族、主治医等から意見を頂き、月1回の会議でモニタリングを実施、職員全員で介護計画に取り組みケアプランの内容について検討します。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の生活が把握できる記録を用いて、ケアの実践結果、状況を細めに記録し、報告の共有、見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に沿えるよう、その時のニーズに合わせて支援するように心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事開催にはボランティアにも協力して行ってもらったりと日々の暮らしを安心して楽しいものに出来る様に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院による往診、週1回の訪問看護による健康管理、不定期による通院支援も行っています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護でその都度、入居者様の状態や状況の報告、状態の変化や気になる事があれば、すぐに往診に連絡、相談をし、受診や往診が出来るよう対応しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はコロナにより困難な為、入院先の医師や看護師との情報交換を電話で対応、普段から利用している病院とは関係作りが出来ている為、今後も継続出来るように努めます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応、終末期ケア対策方針の説明を行い、署名を頂いています。ご本人、ご家族様の希望を重視出来る様に病院とも連携し最大限出来る支援の方向性を示しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	病院側との急変時、対応について都度話し合いを行い、周知徹底をしています。応急手当についても機会がある場合は研修に参加していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中、夜間避難訓練、水害訓練を実施しています。また、119緊急通報システムの設置、緊急連絡網の整備も整えています。		

Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人の人格を理解し、個々のプライバシーを尊重しています。声掛け、対応についてもプライドを傷つけないように注意し対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で細目めに入居者様との関わりを持ち、話を傾聴し、希望時には職員間での情報交換を行い、希望に添えるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者様一人一人のペースを尊重し、希望を確認、散歩、入浴、就寝等その人らしい暮らしの支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて衣替えをし、サイズの確認や本人の好みを確認しながら、着替えの際は本人に選んで頂いたり外出時や行事はおしゃれ着などを考えて支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の食べたいもの等聞いて献立を作成しています。茶わん拭きやテーブル拭き等出来る事は手伝って下さいます。誕生日にはその方の好きなものを作っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量や水分量は介護日誌に記録し検食簿によってバランスも確認出来るようにしています。1人1人状態に合わせお粥やミキサー食、刻み等提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に全員に歯みがきの声掛け、個々に合わせて介助や確認を行っています。義歯は夜間は洗浄剤につけて清潔を心掛けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録、排尿チェックシート等を活用し一人一人の排泄パターンを把握、職員間で共有しながら声掛け、誘導を行いトイレでの自立に向けた支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、食物繊維を多めにバランスのとれた食事の工夫を行いながら運動等、体を動かして頂けるよう取り組んでいますが、それでも出ない場合には下剤や坐薬で対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴は週に2、3回入れる様に支援しています。個々の状態、希望に合わせ、支援しています。拒否があった時は時間や日にちをずらして支援をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜は個々のタイミングで入床時間が違いそれぞれのペース、希望に合わせ支援しています。又、安眠出来る様にオムツ交換の時間も配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は1人1人分かれているケースを使用し、薬をセットする際は職員2名以上で確認、内服時は名前を読み上げ確認します。また、薬リストファイルをすぐに確認できるよう準備しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話の中で好きな事、食べたいもの、やりたい事を聞いて取り入れられるよう検討、対応するように努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナでなかなか実施できていませんが、近くの公園に散歩、外にゴミ捨て等で外に行く機会を増やすようにしています。今後は本人の希望にそえて出掛けられるよう支援していきたいです。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方はご自分で財布を持っています。ご家族様の依頼時は職員が管理、収支記録も必ず行います。立て替えでの対応、希望での支援も行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できます。またその際は替わりに職員が状況報告もすることもあります。希望がある際は自室に電話を置くことも出来ます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ドアに個々の名札やトイレや台所等大きく張り紙をして見やすいようにしています。ホール内には手すりも設置し、車椅子の方や歩行の際に安全に行動が出来るように広い空間を作っています。また、季節ごとにホールを飾り、写真や花も飾ります。湿度や室温にも配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には広く見通しがよく動物や風景の写真を貼って穏やかな雰囲気作りに努め、居心地よく過ごして頂けるように工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や大切にされていた物を持ってきて頂き、ご本人の過ごしやすように自由に使ってもらっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの壁に沿って手すりがついておおい、出来る限り安全に過ごして頂けるように物を置かないようにしています。また居室やトイレ等にはわかりやすいよう表札や張り紙で対応しています。		